
東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2025 年 VOL. 4 (2025. 10)

≫筑波大学競技会・男子 400m にて、齊藤宥哉 (M2) が 47.68 で部記録を更新

≫27 大戦・男子 400m にて、岸本醍知 (2) が 47.68 で部記録タイを樹立し優勝

≫27 大戦・男子 1500m にて、渡邊優典 (3) が 3:53.23 の大会新記録で優勝

●第 47 回北日本学生陸上競技対校選手権大会	-----2~4 ページ
●第 38 回国公立 27 大学対校陸上競技大会	-----4~10 ページ
●秩父宮賜杯第 57 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会 兼第 18 回東北学生女子駅伝対校選手権大会 兼第 43 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会	-----10~13 ページ
●自己ベスト更新者一覧	-----13 ページ
●OBOG 戦のお知らせ	-----14 ページ
●祝賀会のお知らせ	-----14 ページ
●今後の予定	-----14 ページ
●編集後記	-----14 ページ

清秋の候、会員の皆様にはますますのご清祥のこととお慶び申し上げます。

今号では、第 47 回北日本学生陸上競技対校選手権大会、第 38 回国公立 27 大学対校陸上競技大会、秩父宮賜杯第 57 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会兼第 18 回東北学生女子駅伝対校選手権大会兼第 43 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会の計 4 つの大会を中心に、各大会における選手たちの活躍をお伝え致します。

◎第 47 回北日本学生陸上競技対校選手権大会(9/5~7) ～札幌市円山競技場～

9/5~7 の 3 日間にわたり北海道札幌市円山競技場にて第 47 回北日本学生陸上競技対校選手権大会が開催されました。出場選手は少なかったものの、選手一人ひとりが日ごろの練習の成果を十分に発揮し非常に収穫のある大会となりました。以下、出場者の観戦記となっております。

●選手報告

☆男子トラック

男子 100m 予選

6 組 3 着 新田琥太郎(2) 11.13(+1.1)

調整期間や当日のアップの感覚がよかったためタイムを狙えると思っていたが、スタートがハマらず力んでしまい、SB ではあるものの悔しさの残る結果となった。

7 組 3 着 菅野涼太(4) 10.99(+1.5)

風、天候ともによいコンディションではあったが、後半 50m ほど靴紐がほどけ、満足のいくレースは出来なかった。自分の不注意に落胆し、虚しさを感じた。一方でこの状態でこのタイムを出せたことで自分の実力は PB 時より高いことを確信できた。

DNS 斉藤宥哉(M2)

男子 200m 予選

6 組 6 着 吉村優輝(1) 23.52(+0.2)

前半は良かったが後半上げることが出来ず、目標としていた 22 秒台を出すことが出来なかった。冬季で練習を積んで、来シーズンは 100m と 200m の両方で PB を出せるように頑張りたい。

男子 400m 予選

4 組 1 着 平野蒼士(1) 49.18

試合前から考えていた、やりたかったことは出来ましたが、記録に出てこなかったので鍛錬していきたいと思います。

5 組 1 着 岸本醒知(2) 48.16

マイルで結果を残すため予選一本で 47 秒台を出しに行く。前半 200 までは良かったものの 200-300 区間で上手くギアを切り替えることができず漫然と繋いでしまった。七大戦の決勝とほぼ同じような結果となってしまった。

男子 400m 準決勝

DNS 岸本醒知(2)

DNS 平野蒼士(1)

男子 4×400mR 予選

3 組 2 着 菅野(4)-小出(6)-平野(1)-岸本(2)

記録：3:14.16

1 走の菅野は安定感のある走りで 2 着でバトンパス。2 走の小出は粘りの走りを見せ先頭との差をつめて 2 着でバトンパス。3 走の平野はバ

ックストレートで先行されるも冷静な走りで抜き返し 2 着でバトンパス。4 走の岸本は後ろを気にしながら落ちていて気楽に走り 2 着でゴール。着順での決勝進出を決めた。

男子 4×400mR 決勝

3 位 齊藤(M2)-菅野(4)-平野(1)-岸本(2)

記録：3:12.44

当日はバックストレートに強い向かい風が吹いていたため、タイムを狙うだけでなく、来年度の日本インカレ C 標準（本大会優勝）突破も視野にいて、臨むレースとなった。1 走の齊藤宥哉(M2)は、前半 200m を戦略的に抑え、水濤のあたりから勝負をかける形で、2 番手の新潟医療福祉大に 0.5 秒差をつけて、1 着でバトンパス。2 走の菅野涼太(4)は、前半から積極的に後続を引き離しにかかり、ほぼ自己ベストペース（ラップタイム 47.5）で 400m ラインを通過。しかし他大学の 2 走も強敵揃いで、3 走にバトンがわたる時点での、本学の順位は 3 位。3 走の平野蒼士(1)は、いつもどおり、前半はゆったり加速し、徐々にストライドをのばしていく冷静な走りを展開。強風に阻まれ、うまく加速できなかったところを東海大北海道にまくられ、4 着でバトンパス。日本インカレ、七大戦でも活躍した 4 走の岸本醒知(2)は、はやくもバックストレートで勝負に出る。仙台大に次ぐ 2 着までつけたものの、残り 50m、新潟医療福祉と接戦の末まくられ、3 着でゴール。この悔しさを弾みにして、冬季にどれだけ距離を踏むことができるか、怪我なく継続的に、全員で高め合うことができるかどうか、その結果、全国トップレベルでもわたりあえるような 400m 選手が何人出てくるか、ということに、来年のマイルチームの命運はかかっている。

男子 400mH 予選

DNS 小出寿啓(6)

☆男子フィールド

男子 走高跳 決勝

11 位 嶋崎雄飛(M2) 1m80

足首痛めた。1 週間前に砂浜練なんてやるもんなかったでほんま。

男子 走幅跳 決勝

15 位 坂本泰(M1) 6m45(+3.5)

加速区間～中間の間延びが酷く、踏切に入るにあたって無理やり帳尻合わせただけの踏切となってしまった。

男子 やり投 決勝

11 位 石井誠一郎(2) 51m36

しょうもない怪我をしないようにする。原付乗るときは気をつける。

男子 十種競技

12 位 大泉宥太(3) 4663 点

自分の競技に対する甘さを実感した。主将として情けない限りである。

13 位 金岡拓途(1) 4444 点

初の十種で緊張したが何とかやりきることが出来た。中々思うように行かなかったので、今後鍛錬を積んで記録を伸ばしていきたい。

☆女子トラック

女子 400m 予選

DNS 加賀谷美結(4)

女子 1500m 決勝

7 位 塩見薫(3) 4:57.38

スタート後、位置取りに苦戦しながら調度良いペース帯の集団について走った。ラスト 300m からスパートをかけ北大の選手に追いついたかったが、追いつけずそのままゴール。

女子 5000m 決勝

7 位 塩見薫(3) 18:55.12

2000m まで落ち着いて走り、そこからビルドアップというレース展開だった。前を追って走ったがペースを上げることができず不完全燃焼なレースになってしまった。

◎第 38 回国公立 27 大学対校陸上競技大会(9/26~28)～茨城県笠松運動公園陸上競技場～

昨年度に引き続き茨城県笠松運動公園陸上競技場で開催となりました。PB 更新や入賞する選手もあり、多くの選手が活躍いたしました。対校種目に出場した選手のリザルトと観戦記を紹介します。

●選手報告

☆男子トラック

男子 100m 予選

4 組 3 着 白田蓮希(3) 11.06(-1.4)

調整がうまくいかず、調子を落とした状態で出場した。スタートでバランスを崩し、スピードもピッチも上がりきらないまま 3 着となった。風を考慮すれば思ったより悪くないタイムだが、悔しいレースとなった。

7 組 5 着 元木盛太(5) 11.07(+0.5)

10 秒台を狙っていて、コンディションも体の状態も良かったが届かなかった。中盤以降の二次加速局面に他の選手との差を感じた。

9 組 5 着 小南慧馬(3) 11.36(+1.3)

走幅跳で足首に怪我を負ってしまい、ハムストリングスにも不安を抱えた試合だった。アップからスタート練習までは調子は悪くなく、怪我に不安はあるが好記録を目指せると感じていた。スタートして 50m くらいまではある程度走っていたが、後半からハムストリングスが強烈に痛みだし、力が入らず走りが崩壊してしまった。複数種目に耐えられる体の強度や技術がまだまだ不足していると感じた。冬季で徹底的に鍛え直し、強くなって戻ってきたい。

男子 100m 準決勝

1 組 7 着 元木盛太(5) 11.09(+0.4)

予選では他の選手が気になって少しリズムが崩れた気がしたので、自分の足音に集中しようと思った。80m くらいまでは良かったが、一瞬だけ右腓腹筋がピクとなり、それ以降リズムが崩れて足が後ろで回ってしまった。

3 組 7 着 白田蓮希(3) 11.24(-2.6)

予選との間が短く、練習不足の自分にとっては厳しいものがあつた。一步目で出遅れ、順位を上げられずに終わった。すごく風を感じた。

男子 200m 予選

3 組 3 着 新田琥太郎(2) 22.62(-1.2)

課題だった前半は悪くなかったが後半思ったより伸びずそのままタイムも伸びずといった所感。大きく動かしていると思っていたが動画をみたら大して動かしていなかった。

6 組 4 着 神近凜太郎(3) 23.00(-1.0)

東北インカレ以来の復帰戦で、練習量が足りてなかった。

DNS 堀航太郎(2)

男子 200m 準決勝

3組6着 新田琥太郎(2) 22.92(+0.1)

死んだ。軽い熱中症になった。体を冷やす工夫を考えていきたい。

男子 400m 予選

6組3着 長田悠希(3) 52.76

B 決勝進出を目標に臨んだが、不甲斐ない結果となった。足を攣った自己管理の甘さと、単純な実力不足。マイルでの走りも含めて、走力が足りていなかった。また、怪我で練習できないなどというのも無くしたい。

7組1着 岸本醒知(2) 49.14

バックストレートの向かい風が強すぎて心が折れかけた。ホームストレートの入りで後ろを見たら大分余裕があったので流してゴール。無事にA決勝に進めて良かった。

男子 400m 決勝

1位 岸本醒知(2) 47.68

外レーンに実力者が多かったためスタートから外についていく意識で走る。いつも通り200通過後あたりでギアを上げ、外を喰えることは確信。ラストまで体を上手く動かすことができた。

男子 800m 予選

1組3着 鈴木朝陽(2) 1:59.82

予選通過を目指して途中先頭に立つことも考えていた。58前後で400を通過して、先頭のペースアップに付けず、最後の100はまとまり切らなかった。

2組1着 錦戸昂雅(3) 1:55.14

予選通過を目標に挑んだ。1周目予想以上にハイペースに進んだが最後の直線で予定通り前に出て1着を獲得して決勝へ進出できた。

8組1着 縣昌幸(2) 1:55.29

前の組を見て1:55台で走ればA決勝は固いと思いつもりで走った。ブレイクする前やや内側レーンの選手が速かったので少し足を使い

先頭を引っ張る展開になった。その後は、ずっと前を走り、後ろが離れたらスピードを緩める気持ちで踏みすぎないつもりで走った。最後の直線で刺されかけたが何とかペースを上げて死守した。

男子 800m 決勝

3位 縣昌幸(2) 1:54.22

優勝をめざして500あたりから先頭で走ったが、最後の直線で及ばず刺された。それまでで反省するとしたら200から400で足を使いすぎたかな。ラップとしては今まででいちばん早く通過したのでキツかった。500から600は自然にあげたつもりだったが、700付近で足が固まってきた。ラスト200を何がなんでも28で走る練習を積みたい。

5位 錦戸昂雅(3) 1:54.89

優勝を目指していたがうまく位置取りができず4着となってしまった。オープンの際の位置取りや最後の直線の前のコース取りで反省点が残った。

男子 1500m 予選

1組11着 鈴木朝陽(2) 4:18.44

想定よりもスローな展開からの1000付近のペースアップについていくことができなかった。苦しくてもレースの流れに乗ることが大事だと改めて感じた。

4組5着 金子宙生(1) 4:07.26

UB、2ndBestなので、記録的にはいい結果であるが、決勝進出、PB更新という目標を達成することができなかったのはとても悔しかった。

2周目までは、前にしっかりと着いて、調子も悪くなかったが、3、4周目で着いていき、ラストに勝負をかけることができなかった。

実力不足を感じた。

5組1着 渡邊優典(3) 4:04.66

序盤から先頭でレースを進め、後続との差を保ちながらゴール。

男子 1500m 決勝

1 位 渡邊優典(3) 3:53.23

1 周目、新潟大の上月(M1)が 62 のハイペースでレースを進め、私はその後ろにびったり着く。
2 周目から彼のペースが落ち始めているのを感じとり、抜かしてそのままゴールまで独走。
大会記録でゴール。

男子 5000m 決勝

13 位 渡邊優典(3) 15:35.73

自分のペースを壊さないようにだけ注意し、一定の出力でレースを進めることを大切にした。
14 分台への兆しが少し見えた気がするので、ここからさらに気を引き締めて頑張りたい。

男子 110mH 予選

DNS 鍵山弘樹(2)

男子 400mH 予選

6 組 1 着 水澤大地(3) 55.66

資格記録 2 位での予選。5 台目まで堅実に走りトップでゴールできると確信して流した。しかし、しっかりケツワレした。

7 組 5 着 八木陽輝(1) 59.06

前半つつこむことを意識したレースで、出だしは良かったが後半垂れてタイムに結び付かなかった。後半でも動ける体づくりをしていきたい。

DNS 菅野涼太(4)

男子 400mH 決勝

3 位 水澤大地(3) 54.56

得意の外側からのスタート。予選の反省から前半はクールに走り、後半で上手く切りかえていく戦略にした。これがうまくハマりなんと PB。
良いシーズンの締めくくりとなった。

男子 4×100mR 予選

DNF 元木(5)-新田(2)-小南(3)-白田(3)

1 走は得意のスタートを活かし他大学と遜色無い走りをした。2 走は遅れを取った。向かい風に煽られ後半の失速が大きかったこと、3 走がスタートを切るタイミングが早かったことの両方が重なりバトンが渡らず失格。練習不足を痛感させられた。

男子 4×400mR 予選

3 組 1 着 水澤(3)-堀(2)-岸本(2)-渡邊(3)

記録：3:18.34

予選を通過することを目標としてマイル経験者が多い布陣で挑む。1 走の水澤は前半から吹っ飛ばし後半垂れるも 4 着でバトンパス。2 走の堀は経験が浅いながらも好走を見せ 2 着でバトンパス。3 走の岸本は安定した走りを見せ 1 着でバトンパス。4 走の渡邊は、一度は抜かされたものの中距離選手らしい粘りの走りで余裕を持って 1 着でゴール。無事に決勝進出を決めた。

男子 4×400mR 決勝

5 位 堀(2)-長田(3)-縣(2)-岸本(2)

記録：3:18.32

予選からメンバーを 2 人変え来年以降のマイルリレーを見据えたメンバーで挑む。1 走の堀は線ラップ 49.9 の好走を見せ 3、4 着でバトンパス。2 走の長田は他校のエース相手に前半少し出遅れるも後半をしっかりまとめ 7 着でバトンパス。3 走の縣は前半落ち着いて前についていく走りから後半の伸びを見せ前との差を詰めて 7 着でバトンパス。4 走の岸本は全カレ以来の線ラップ 46.8 の走りを見せるも 4 位を抜かし切ることは出来ず 5 着でゴール。

予選、決勝を通して来年以降のマイルチームに向けた良い経験となった。

☆男子フィールド

男子 走高跳 決勝

10位 嶋崎雄飛(M2) 1m85

三角靱帯逝きました

新しい助走に手応えを感じていただけにガン萎え。

男子 棒高跳 決勝

4位 吉岡樹吏哉(1) 3m70

足が痛かったので中助走で出場した。ポールの調整がうまく行かず、何本か空中まで繋げられなかった。

6位 鍵山弘樹(2) 3m50

夏の特訓を経て、4mを目指していたが及ばなかった。3m70を体は超えていたがポールで落としてしまい悔しい終わり方になった。全体としては自分の成長と、技術的な不備を確認できてよかった。

DNS 倉部彰土(4)

男子 走幅跳 決勝

2位 小南慧馬(3) 7m13(-0.7)

8月、9月と練習を十分に積むことが出来ず、不安があった状況での試合であった。実際は不安とは裏腹に助走の調子が非常に良く、競技場もコンディションが良好であったため自己ベストを更新することができ、初めて公認で7mを超えることが出来た。試合内容としても1本目からトップ8に残れる記録を残せたため、七大会での反省が多少生きたと思う。

今年度は出せるはずの記録が中々出せず、もどかしい試合が多かったが、ようやく一つ殻を破りさらに上のステージで戦う上でのスタートラインに立てたと思う。

しかし走力、踏切技術、試合展開等まだまだ上位大会で戦う上では足りない所が多すぎるのでこの結果に満足せずに練習を重ねていきたい。

23位 大場康平(4) 6m35(+1.7)

本数重ねるごとに身体が軽くなったし、踏切に意識を向けやすくなっていた。ただ、3本目がいくら待っても向かい風しか吹かなかったのも、-2.4の中泣く泣く跳躍。他にも言いたいことは色々あるが、キリがないので割愛。今回は記録が出ない理由が無いと思っていたので残念。

DNS 早藤海音(2)

男子 三段跳 決勝

20位 根本陽大(3) 13m27(+0.6)

試合前から腰に違和感があったのと、アップの時間をあまり取れなかったこともあり、本調子になるまで時間がかかった。助走はとても走れていたが、その分足合わせに苦労した。3本目でPBを更新できたのは嬉しかったが、本調子になるのがもう少し早ければもっと記録更新を狙えたと思うと悔いが残った。ギアを上げきるためのアップの仕方を考え直す必要があると感じた。

DNS 大谷航平(M2)

DNS 江尻鈴真(2)

男子 砲丸投 決勝

28位 大泉宥太(3) 8m62

試合に出られる技術の完成度ではなかった。もっと努力しなければならない。

男子 やり投 決勝

24位 大泉宥太(3) 36m36

公式練習で技術をつかむことができた。はるばる茨城に行った甲斐がある。

DNS 増田併介(3)

男子 十種競技

10位 金岡有途(4) 5379点

追い風参考ながらも、好タイムで100mをスタートし、ほとんどの競技で、ベストとはいかないものの、まずまずの記録を出すことが出来た。しかし、得意種目の110mHでの不調や、最後の1500mでの追い上げ不足などから、自己ベスト

まであとわずかという悔しい結果になってしまった。やり投げでは大幅にベストを更新することが出来たのでそこは良かった。

DNS 倉部彰士(4)

☆女子トラック

女子 100m 予選

DNS 白鳥名花(2)

女子 200m 予選

2組1着 白鳥名花(2) 25.56(+1.1)

前半の入りを確認して、後半は余裕を持って走るというレースプランだったが、コーナーまでに少し力を使ってしまった。後半は想定通り余裕を持つことができ、そのまま一着でゴール。

4組4着 加賀谷美結(4) 27.26(+1.9)

大学初挑戦の200m。前半の加速は他の選手と比較してゆったりと余裕を持ったフォームで入る。ラスト50mで前の選手との差を縮めるも、順位は上げられず4着でゴール。

女子 200m 決勝

1位 白鳥名花(2) 24.71(-0.3)

前半はある程度冷静に走り、後半に伸びのある走りをするを目標とした。タイムとしてはよいわけではないが、対抗戦できちんと勝ち切ることができたのでよかったと思う。

女子 400m 予選

2組2着 加賀谷美結(4) 1:01.16

真ん中のレーンからスタート。加速はいつもよりゆとりを持って入り、1位の選手に喰らいつく。後半から徐々に前の選手と差を縮め、2着でゴール。

3組4着 建部亜美(2) 1:05.49

前半スピードに乗って200mを入れたものの、カーブでリズムを崩し失速してしまい後半伸びなかった。

4組2着 白井千晴(2) 1:01.18

前半のスピードも出せず、後半も垂れてしまった。

女子 400m 決勝

5位 白井千晴(2) 1:00.28

予選と比べて前半は走ることができたが後半は垂れてしまった。練習不足を実感したレースだった。

7位 加賀谷美結(4) 1:01.27

内側から周りの選手のスピードを伺いながらスタート。前の選手になかなか追いつけず、そのまま後半へ。伸びを生かしてラスト100mから前の選手との差を縮めるも、順位を上げることはできず7着でゴール。

女子 800m 予選

1組1着 佐伯紅南(1) 2:18.32

あまり力を使わずに1周目を67秒台で通過。苦しさはほとんどなく、余裕があれば1着に入りたいと思えた。しかし、ラストの200mで先頭のペースアップに上手く着いていくことが出来ず、2着でゴール。予選の目標であった2分20秒を切ることは出来たので安心。

2組2着 松本葉那(2) 2:26.55

全体的にスローな入りで、400m通過が74秒。72で入りたかったので焦る。集団後方に着いたが、後ろが落ちるタイミングですぐに判断して前に出れた。ラスト300mからは100mごとに切り替えられた。最後までギアを上げてフィニッシュ。"04決勝落ちは悔いが残るが、まともなレースができて良かった。

5組1着 喜多和奏(3) 2:26.21

前日の疲れも残っていたので、流した。順当に1着で残れて良かった。

女子 800m 決勝

2位 佐伯紅南(1) 2:19.48

今シーズンは後半型で戦って勝つプランが多く、今回も後半に追い上げる意識で走った。ブレイ

ク直後は 3 番手で、2 番手の選手とは少し離れていた。すぐに追いつこうとするのではなく、1 周かけて徐々に差を縮めたので、無理に力を使わなかった。800m も 1500m 同様にラストで追いつけたが勝てなかった。3 日目、5 レース目に 20 秒を切れたのは少しずつ体力も戻ってきている証拠だと思う。

3 位 喜多和奏(3) 2:20.51

前日までの疲れが祟り、最初からそこまで出력이できなかった。ほぼ順位を変えることができず、600m 通過。最後 1 人抜くことができたが、スパートをかけるタイミングが遅かったのが心残り。

女子 1500m 予選

1 組 1 着 佐伯紅南(1) 4:56.64

決勝のために体力を温存するため、出来るだけ楽に予選通過することを考えた。最後の 1 周でペースアップしたが落ち着いて対処できた。

2 組 1 着 喜多和奏(3) 4:57.85

予選から全力で走った。4 人で拮抗した時は心配だったが、最後まで頑張ったら 1 人抜けられて良かった。

3 組 9 着 松本葉那(2) 5:15.17

1,2 組の結果を受けて全体的に早めなスタート。1 周 80 秒を切るラップで 800m 通過。ここで集団と離され 1 人になりタレる。惰性で走ってしまい後半 2 周は 88 秒ラップでフィニッシュ。精神的な弱さを反省。

女子 1500m 決勝

2 位 佐伯紅南(1) 4:48.05

ハイペースでレースが進んだ。1500m も体力が持つ自信がなく、先頭に着いて行かず集団の真ん中あたりでスタートした。集団の中で体力を温存し、最後の 1 周で溜まっていた力を放出した。ラストの 300m は 52 秒で走り、30m は離れていた 1 位まであと少しのところまで迫った。勝てなかったのは悔しいが、SB を出せたのは良かった。

3 位 喜多和奏(3) 4:50.50

前半から前に出ることを意識し、少しずつ前を抜いて行った。最後まで拮抗するのが嫌だったので、ラスト 400 で全力スパートをかけ、その勢いで 3 位まで上り詰めた。

女子 5000m 決勝

10 位 塩見薫(3) 19:20.41

序盤に出遅れてしまい、ペースを上げようと走っていたが次第に苦しくなり、後半はかなり垂れて不甲斐ないレースだった。

女子 100mH 予選

3 組 6 着 上田綾乃(1) 18.80(-0.9)

スタートで出遅れてしまい、リズムを崩してしまった。

女子 400mH 予選

3 組 6 着 建部亜美(2) 1:10.37

良いスタートができたものの 1 台目で失敗してしまった。そこから 2 台目も崩れてしまい、3 台目で持ち直したものの、前半のリズムが大きく崩れてしまったため、後半持たなかった。

DNS 加賀谷美結(4)

女子 4×400mR 予選

6 組 白井(2)-加賀谷(4)-佐伯(1)-喜多(3)

記録：4:05.94

1 走白井が好スタートを切り、前の大学に食らいついて 2 走加賀谷へ。バックストレートで良い位置をキープすると、前の大学との差を縮める。3 走佐伯は後ろの大学との差を広げ、ラストの直線で粘り強いスパートを見せ、4 走へ。4 走喜多は落ち着いたレース展開で後ろの大学との差を広げ、3 着でゴール。

女子 4×400mR 決勝

6 位 加賀谷(4)-臼井(2)-佐伯(1)-喜多(3)

記録：4:06.21

1 走加賀谷は後ろの選手に追い付かれるも、粘りのある走りでラスト 100m を駆け抜け、2 走へ。臼井は前半のスピードを生かして前の集団に食らいつき、3 走喜多へバトンパス。前の大学を懸命に追いかけ、最後までスタミナの切れない走りで 4 走佐伯へ。じわじわと差を縮めるも、順位を上げることは叶わず、6 着でゴール。

☆女子フィールド

女子 走高跳 決勝

10 位 鈴木碧恋(M1) 1m40

当日調子が良すぎて出力を上げすぎてしまい、踏切位置の近い/遠いの感覚がなくなってしまった。今後は調子が良くてもある程度出力を制御して踏切位置をきちんとコントロールしたい。

女子 走幅跳 決勝

DNS 末岡由衣(3)

女子 三段跳 決勝

11 位 平山梨緒(1) 10m72(-1.0)

コンディション的には悪くはなく、むしろ良い方ではあったが、助走を上手く合わせられずに記録を伸ばすことは出来なかった。風が回っていて調整しにくかったこともあるが、自分の中で安定した助走を掴みきれていないことが一番の原因だと思う。跳躍のほうも助走でスピードが上がりきらなかった結果、無理矢理跳んでいる感覚があり、納得のいく跳躍は 1 本も出来なかった。助走の安定性を高めることと、跳躍動作の見直しを冬季間の目標にして練習していきたい。

24 位 鈴木碧恋(M1) 9m75(+0.3)

練習すれば伸びる気がした。

◎秩父宮賜杯第 57 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会兼第 18 回東北学生女子駅伝対校選手権大会兼第 43 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会

(9/27)～仙台大学～

今年度は宮城県の仙台大学陸上競技場にて全日本駅伝出場をかけた予選会が開催されました。男子は 10 km 2 組に 4 人ずつ出走し、計 8 人の合計タイムを競いました。全力を尽くしましたが、惜しくも 2 位という結果で二大会連続の本大会出場とはなりませんでした。昨年度に引き続き今年も長距離パート以外の部員も現地で応援をしました。男子のリザルトと対校戦に出場した男子選手の観戦記、長距離 PC からの予選会の総括を紹介します。

●リザルト

・男子総合結果

順位	大学	記録
1 位	東北学院大学	4 時間 15 分 08 秒 84
2 位	東北大学	4 時間 17 分 43 秒 37
3 位	山形大学	4 時間 24 分 53 秒 54

組	氏名(学年)	記録
1 組	上原佑太(M2)	32:15.71
	小林由輝(M1)	32:24.05
	新田友海(6)	33:08.95
	熊谷慧(4)	33:09.21
2 組	照内優允(3)	31:26.20
	千葉航太(4)	31:29.08
	出田義貴(2)	31:45.82
	杉山大輔(4)	32:04.35

●全日本駅伝予選会選手報告

1 組-----

3 位(全体 12 位) 上原佑太(M2) 32:15.71

こちらのプランは、「6000m まで 3'15/km で小林と交互に引きながら集団走し後半ペースアップ、熊谷は集団内でできるだけ粘る、新田は行けるときは自分の判断で行く。強い選手は数名前に出るだろうが、それは無視して、こちらの走りに集中する。」というのが基本的なスタンスでした。

事前の想定通り、東北学院大の選手 1 名を含めた数名が飛び出しましたが、序盤は順調に展開し、合計のタイム差はほとんど互角でした。しかし、中盤は牽制でペースが落ち、集団の前を行く学院大 1 名と差がますます広がってしまいました。後半は小林とペースを上げて前を追いましたが、学院大の他選手にも想定以上に粘られ、1 分 7 秒の差をつけられ、2 組目のメンバーに不要な負担を負わせてしまいました。

最終学年ですが、練習にはこれからも可能な限り参加するつもりです。この敗北を糧に、自分ができることをよく考え、来年の伊勢路を奪還するために、長距離パートにできる貢献をしたいと思います。

4 位(全体 14 位) 小林由輝(M1) 32:24.05

スタート後 6000m までは集団走、その後はタイムを可能な限り縮めるというレースプランで挑

んだ。東北学院大学の選手が 1 人先行、予定よりペースが遅いなどの展開があったが、7000m までは集団が形成されていた。残り 2200m 程でペースを上げ、自分を含めた東北大学 2 名、東北学院大学 1 名でラストまで競り合い、最後の直線で東北学院大学 2 番手の選手をかわし、組 4 着でゴール。

レース中致命的なミスはなかったが、攻めの姿勢で挑まなければ勝てない戦力差であったと実感した。

10 位(全体 22 位) 新田友海(6) 33:08.95

6 年の新田友海です。

日頃より応援、ご支援誠にありがとうございます。

皆様のサポートが励みになり私 1 人や正選手 8 人だけで戦っているわけではないと改めて認識しとても心強かったです。

そんな中で不甲斐ない走りをしてしまい本当に申し訳ありません。

現状の走力でできる最大限を果たせたというわけでもなく攻めにいって結局失敗してしまったということ、そしてそもそも今シーズン調子が上がらなかったこともとても悔しいです。

このレースをもって私は陸上競技を引退するため直接レースでリベンジということは叶いません。

ですが今回の敗北の経験から得たことをしっか

り次の世代に繋ぎ、あとはただ後輩達の怪我や不調がないことを祈り続ける形で、来年の予選会の勝利に託したいと思います。

途中入部で学友会陸上競技部にやってきて約 1 年間、悔しい終わりとはなってしまいましたが、練習や大会での日々はとても楽しかったです。誠にありがとうございました。

これからは三秀会の皆様側としてどうぞよろしくお願いいたします。

11 位(全体 23 位) 熊谷慧(4) 33:09.21

5000m までは予定通り、小林さんと上原さんが作る集団の中で耐えた。途中ペースが落ちた際も、8000m まではためたいと思い流れに任せた。半分を過ぎたあたりで給水の勢いと共に集団の前に出たが、その際に脚にあまり余裕がないことに気付き焦ってしまった。その後の集団のペースアップに対応する余裕もなく、切り替えて学院の 4 番目の選手に勝ち切る事にした。しかし残り 3000m 過ぎで既に脚のダメージがピークに達し、残り 1000m での相手のスパートには全く着けなかった。夏合宿後の怪我から 9 月頭に復帰し、当日までの準備でやれる事は全てやった。しかし急ピッチでの調整で思った程調子が戻らなかったのは確かだと思う。その証拠に、5000m まではかなり余裕がある感覚だったが、不意に前に出た際に脚が動かず、実際は集団の流れで楽に感じていただけだった。予定より 30 秒以上遅いタイムでのフィニッシュとなり、ビハインドを作ってしまった事を本当に申し訳なく思う。たくさんの応援ありがとうございました。

2 組-----

4 位(全体 5 位) 照内優允(3) 31:26.20

前半千葉さんの後ろにつき、中盤からは自分で引っ張る形となった。レースに対しては落ち着いて走ることができ、大きくラップを落とすことなくゴールすることができた。今持っている実力は出し切ることができたと思っている。ただ、

その実力で学院大に負けてしまった。これから一年、また全日本大学駅伝の舞台に立てるよう努力していきたい。応援ありがとうございました。

5 位(全体 6 位) 千葉航太(4) 31:29.08

最初の 3000~5000m は他を 3'10/km で引っ張り、後半からペースを上げて前を追っていくレースプランだった。実際は学院 2 人が思っていたより速く飛び出して行ったため、3000m まで引っ張ってそこから上げていった。しかし 3'10/km ペースにハマってしまったのか、思うように上がらず前ともどんどん離されていき、求められていたタイムや役割を果たせないままゴールした。今年は自分が勝たせると意気込んで練習に取り組んできたが、情けない走りとなってしまった。この敗戦を糧に来年再び伊勢路戻れるように頑張りたい。当日は OB の方含めたくさんの応援あるがありがとうございました。

6 位(全体 8 位) 出田義貴(2) 31:45.82

二年連続で伊勢に行くという目標のもと、レースに臨みました。

はじめは千葉さん照内さんと 3 人で進めていきました。4000 辺りから少しずつつきつくなっていまい、二人から少しずつ離れていってしまい、最後もプランよりも上げることができないままゴールしました。

結果としては学院大さんに負け、本戦出場を逃す悔しく、課題の残るレースとなってしまいました。しかし、調子が上がらない中で自己ベストを出せたことや過去のレースで課題であったペースの落ち込みを抑えられたなど良い点もあったように感じます。反省をしっかりと行い、来年に向け一つずつ積み上げていきたいと思えます。応援ありがとうございました。今後もよろしくお願いします。

8 位(全体 10 位) 杉山大輔(4) 32:04.35

スタートから 3 つの集団に分かれてレースが進んだ。自分は 3'10/km の集団につき、余裕があれば後半ペースアップしていくプランだったが、2000m 過ぎあたりで前の選手が給水で後ろに下

がったためそこから集団を引く形になった。1組目終わった時点で約1分の差があったためここで後ろに下がって引かせるという選択はできなかった。また3'10/kmで引き続ければ学院の選手がいずれ離れていくだろうと思い、そのままペースを維持して前を追った。しかし、思っ

いた以上に学院の選手は力があり、8000mあたりで前に出られてしまった。その後はなんとか差が開かないように粘り、最後の1周で抜き返してゴールした。

●全日本大学駅伝東北地区予選会総括

長距離パートキャプテン：松本修哉(3)

OBOGの皆様、日頃より様々な面での多大なサポートありがとうございます。

先日9月27日に行われました全日本大学駅伝東北地区選考会の結果報告及び反省をさせていただきます。結果は4時間17分43秒で総合2位、全日本大学駅伝本戦への出場権を得ることはできませんでした。今年は昨年までとは形式が変わり、仙台大学トラックでの10000mによる選考でした。作戦通り集団を上手く作りながら選手全員が全力で走りましたが、東北学院大学の上位の選手に差をつけられてしまう結果となりました。こちらのチームもPBを出した選手がいたにも関わらず合計タイムで負けてしまったのは単純にチームとしての走力の差がでたと感じております。私自身もPCとしてとても悔しい結果となってしまいました。今年のこの悔しさを忘れず、新PCのもと来年は必ず本戦で伊勢を走りたいと思います。改めて応援、サポートしてくださった皆様に感謝を申し上げます。

◎自己ベスト更新者一覧(8/1~9/30)

男子 100m

元木盛太(5) 11.02(+0.3) 全日本医歯薬獣(8/30)

岸本醒知(2) 11.05(+1.3) 27 大戦(9/28)

堀航太郎(2) 11.12(0.0) 27 大戦(9/28)

男子 200m

新田琥太郎(2) 22.62(-1.2) 27 大戦(9/27)

男子 400m

斉藤宥哉(M2) 47.68 筑波大競技会(8/30)

▲部記録更新!!

岸本醒知(2) 47.68 27 大戦(9/26)

▲部記録タイ!!

瀬尾祐太郎(2) 53.90 全日本医歯薬獣(8/30)

男子 800m

大崎海斗(2) 2:03.02 東北総体(9/21)

女子 800m

松本葉那(2) 2:26.55 27 大戦(9/27)

女子 1500m

喜多和奏(2) 4:50.50 27 大戦(9/26)

塩見薫(3) 4:57.38 北日本 IC(9/5)

女子 5000m

塩見薫(3) 4:57.38 北日本 IC(9/7)

男子 400mH

水澤大地(3) 54.57 27 大戦(9/28)

男子三段跳

根本陽大(3) 13m27(+0.6) 27 大戦(9/27)

男子走幅跳

小南慧馬(3) 7m13(-0.7) 27 大戦(9/26)

男子棒高跳

鍵山弘樹(2) 3m50 27 大戦(9/26)

◎OBOG 戦の開催のお知らせ

今年も OB・OG 戦を開催したく存じます。多くの OB・OG の皆様のご参加をお待ちしております。

日付：11月8日(土)

場所：東北大学評定河原グラウンド

種目、申込方法、申込期間、連絡先は別途案内申し上げます。

◎祝賀会のお知らせ

本年度、東北インカレにおいて初優勝を果たし、さらに七大戦でも総合優勝を達成いたしました。これを受け、三秀会主催による祝賀会を開催する運びとなりました。

日付：11月8日(土) 17:00～19:00

場所：キッチンテラス Couleur(クルール) (東北大学川内北キャンパス)

会費、申込方法、申込期間、連絡先は別途案内申し上げます。

◎今後の予定

- ・10/12-13 第54回東北学生陸上競技個人選手権大会(仙台大学陸上競技場)
- ・10/13 第37回出雲全日本大学選抜駅伝競走(島根県出雲市)
- ・10/26 第43回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(仙台市)

- ・11/8 OB・OG対現役部員対抗陸上競技大会(東北大学評定河原グラウンド)
- ・11/22 秋保マラソン(秋保温泉郵便局前)

◎編集後記

今年は北日本インカレをはじめ、27大戦や各記録会など、トラックはシーズン終盤戦ながらも部記録更新や自己ベストを更新する選手も多く一人ひとりの活躍が光りました。また、ここからは駅伝のシーズンとなります。今回の予選会では惜しい結果となってしまいましたが、長距離パートはじめ一人ひとりの部員が自身と部活動全体のために日々練習に励んでいます。OB、OGの皆様、引き続きたくさんのご声援を宜しくお願い致します。

文責 OBOG 通信担当 堀航太郎 編集補助 宮下尚丈、須藤桃由

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp